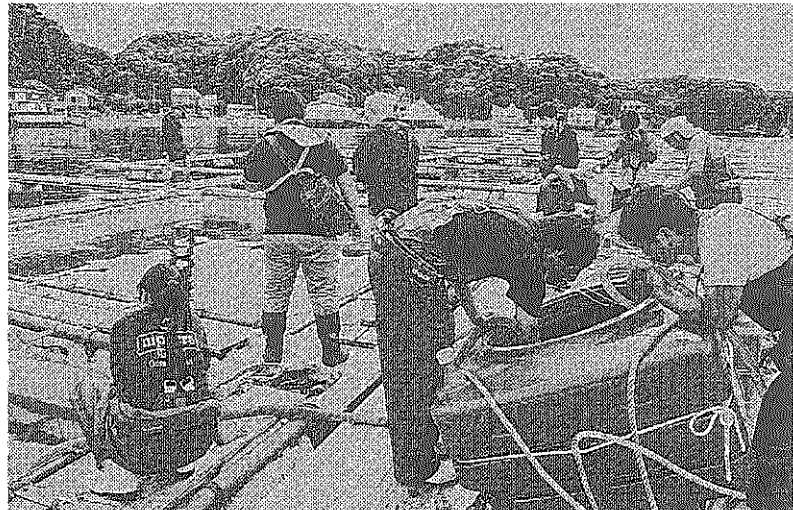
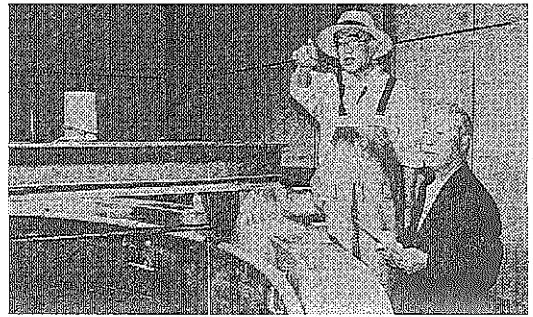
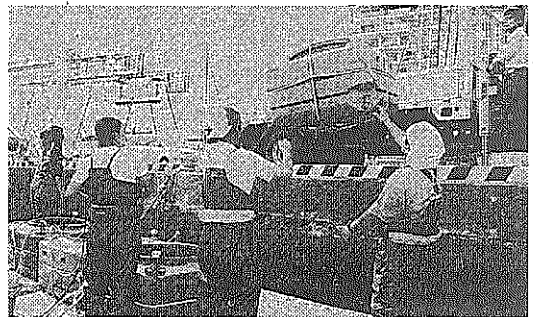
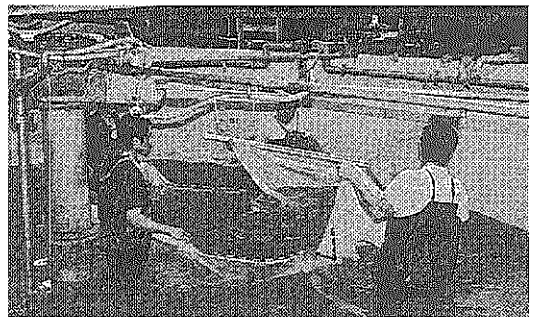


調査型マダイ放流を視察



(上から) 神奈川県栽培協の施設で作業、稚魚を網で掬い、小網代に移送、栽培協の今井専務と日釣工の小島委員長(手前)



日本釣用品工業会
神奈川県栽培協会

中間育成し放流へ

(一社) 日本釣用品工業会 (島野啓三会長) と
(公財) 日本釣振興会

(高宮俊諦会長) では、「**つり環境ビジョン**」の事業を今春よりスタート

しており、優先3事業の一つ、放流事業のうち、調査型放流に関して(公

財) 神奈川県栽培漁業協会と契約、マダイ放流の準備を進めている。その受精卵は今春、静岡県浜岡から城ヶ島の同栽培漁業協会に搬送し、ふ化

した後、施設の水槽で飼育して、このほど小網代湾内に設置している中間育成の生簀に移送した。この放流事業に関して日釣工つり環境ビジョン委員会は6月6日、三浦市三崎町城ヶ島の同栽培漁業協会での作業を視察した。この日は同協会の今井利為専務理事の案内で環境ビジョン委員会の小島忠雄委員長と事務局担当者らが早朝より施設概要など説明を受けた。そして、スタッフが飼育水槽で20リットルほどに育った約20万尾のマダイ稚魚を特製の網で掬って、移送用タンクに入れ、トラックで小網代湾に移動、筏船で生簀に運び、手早くホースで生簀の網の中に稚魚を入れて今回の作業を終了。ここで更に中間育成、8月下旬から9月上旬に相模湾や東京湾に放流する。(次号に続報)

放流する。(次号に続報)